

鼎町史上巻 目次

第一章 鼎町の歴史概観	1
第二章 鼎町の地理概観	10
第三章 鼎町の産業概観	20
第四章 鼎町の文化概観	30
第五章 鼎町の教育概観	40
第六章 鼎町の交通概観	50
第七章 鼎町の人口概観	60
第八章 鼎町の社会概観	70
第九章 鼎町の政治概観	80
第十章 鼎町の経済概観	90
第十一章 鼎町の文化概観	100
第十二章 鼎町の教育概観	110
第十三章 鼎町の交通概観	120
第十四章 鼎町の人口概観	130
第十五章 鼎町の社会概観	140
第十六章 鼎町の政治概観	150
第十七章 鼎町の経済概観	160
第十八章 鼎町の文化概観	170
第十九章 鼎町の教育概観	180
第二十章 鼎町の交通概観	190
第二十一章 鼎町の人口概観	200
第二十二章 鼎町の社会概観	210
第二十三章 鼎町の政治概観	220
第二十四章 鼎町の経済概観	230
第二十五章 鼎町の文化概観	240
第二十六章 鼎町の教育概観	250
第二十七章 鼎町の交通概観	260
第二十八章 鼎町の人口概観	270
第二十九章 鼎町の社会概観	280
第三十章 鼎町の政治概観	290
第三十一章 鼎町の経済概観	300
第三十二章 鼎町の文化概観	310
第三十三章 鼎町の教育概観	320
第三十四章 鼎町の交通概観	330
第三十五章 鼎町の人口概観	340
第三十六章 鼎町の社会概観	350
第三十七章 鼎町の政治概観	360
第三十八章 鼎町の経済概観	370
第三十九章 鼎町の文化概観	380
第四十章 鼎町の教育概観	390
第四十一章 鼎町の交通概観	400
第四十二章 鼎町の人口概観	410
第四十三章 鼎町の社会概観	420
第四十四章 鼎町の政治概観	430
第四十五章 鼎町の経済概観	440
第四十六章 鼎町の文化概観	450
第四十七章 鼎町の教育概観	460
第四十八章 鼎町の交通概観	470
第四十九章 鼎町の人口概観	480
第五十章 鼎町の社会概観	490
第五十一章 鼎町の政治概観	500
第五十二章 鼎町の経済概観	510
第五十三章 鼎町の文化概観	520
第五十四章 鼎町の教育概観	530
第五十五章 鼎町の交通概観	540
第五十六章 鼎町の人口概観	550
第五十七章 鼎町の社会概観	560
第五十八章 鼎町の政治概観	570
第五十九章 鼎町の経済概観	580
第六十章 鼎町の文化概観	590
第六十一章 鼎町の教育概観	600
第六十二章 鼎町の交通概観	610
第六十三章 鼎町の人口概観	620
第六十四章 鼎町の社会概観	630
第六十五章 鼎町の政治概観	640
第六十六章 鼎町の経済概観	650
第六十七章 鼎町の文化概観	660
第六十八章 鼎町の教育概観	670
第六十九章 鼎町の交通概観	680
第七十章 鼎町の人口概観	690
第七十一章 鼎町の社会概観	700
第七十二章 鼎町の政治概観	710
第七十三章 鼎町の経済概観	720
第七十四章 鼎町の文化概観	730
第七十五章 鼎町の教育概観	740
第七十六章 鼎町の交通概観	750
第七十七章 鼎町の人口概観	760
第七十八章 鼎町の社会概観	770
第七十九章 鼎町の政治概観	780
第八十章 鼎町の経済概観	790
第八十一章 鼎町の文化概観	800
第八十二章 鼎町の教育概観	810
第八十三章 鼎町の交通概観	820
第八十四章 鼎町の人口概観	830
第八十五章 鼎町の社会概観	840
第八十六章 鼎町の政治概観	850
第八十七章 鼎町の経済概観	860
第八十八章 鼎町の文化概観	870
第八十九章 鼎町の教育概観	880
第九十章 鼎町の交通概観	890
第九十一章 鼎町の人口概観	900
第九十二章 鼎町の社会概観	910
第九十三章 鼎町の政治概観	920
第九十四章 鼎町の経済概観	930
第九十五章 鼎町の文化概観	940
第九十六章 鼎町の教育概観	950
第九十七章 鼎町の交通概観	960
第九十八章 鼎町の人口概観	970
第九十九章 鼎町の社会概観	980
第一百章 鼎町の政治概観	990

口 絵

発刊にあたって

鼎町史刊行会会長 関島徳雄

第一編 考 古

第一章 考古学による歴史の復元……………三

第一節 文献資料と考古資料……………三

第二節 考古学界における時代区分……………五

第三節 鼎町における過去の調査……………七

第二章 先土器時代……………一五

第一節 人類の出現と自然環境……………一五

第二節 旧石器時代の文化……………一九

第三節 下伊那における旧石器時代の遺跡……………二三

第三章 縄文時代……………二六

第一節 縄文土器の起源……………二六

第二節 縄文土器の編年……………三三

第三節 鼎町の環境と遺跡の分布……………三六

第四節 鼎町における縄文時代の遺跡……………四三

- 一 切石地域
- 1 山の洞遺跡
- 2 天伯A遺跡
- 3 天伯B遺跡
- 4 山岸遺跡

二 上山地域	5	五輪原遺跡	6	青木遺跡	7	六反畑遺跡
	1	堂垣外遺跡	2	日向田遺跡	3	上の平遺跡
	5	代田遺跡			4	柳添遺跡

三 一色地域	1	一色遺跡	2	栗山遺跡	3	萱垣遺跡	4	田井座遺跡
--------	---	------	---	------	---	------	---	-------

四 名古熊地域	1	羽場遺跡	2	行人塚遺跡	3	名古熊八幡遺跡	4	稲井学校跡遺跡
---------	---	------	---	-------	---	---------	---	---------

	5	宮久保遺跡	6	地藏堂遺跡	7	北原遺跡	8	庚申塚遺跡
--	---	-------	---	-------	---	------	---	-------

	9	下伊那農学校遺跡	10	地藏面遺跡	11	八幡原遺跡
--	---	----------	----	-------	----	-------

五 下山地域	1	矢高原遺跡	2	猿小場遺跡
--------	---	-------	---	-------

第四章 弥生時代……………七五

第一節 農耕技術と金属器の普及……………七五

第二節 弥生時代の鼎町……………八一

一 一切石地域	1	天伯A遺跡	2	天伯B遺跡	3	山岸遺跡
---------	---	-------	---	-------	---	------

二 上山地域	1	日向田遺跡	2	柳添遺跡	3	乃木坂遺跡
--------	---	-------	---	------	---	-------

三 下山地域	1	矢高原遺跡	2	猿小場遺跡
--------	---	-------	---	-------

第五章 古墳時代……………九三

第一節 古墳の出現と変遷……………九三

第二節 長野県における古墳文化……………九四

第三節 古墳時代の鼎町……………九六

一 古墳	1	天伯一号古墳	2	天伯二号古墳	3	桜瀬古墳	4	大塚古墳
------	---	--------	---	--------	---	------	---	------

	5	切石古墳	6	萱垣古墳	7	大塚古墳	8	西の原古墳
							9	宮の原古墳

第六章 歴史時代……………	二七
第一節 歴史時代における遺跡と遺物……………	二七
第二節 鼎町における遺跡……………	二六
一 一切石地域……………	一六
二 上山地域……………	一四
三 名古熊地域……………	一四
四 下山地域……………	一四
1 矢高原遺跡……………	二
2 猿小場遺跡……………	二
3 青木遺跡……………	三
4 日向田遺跡……………	二
5 柳添・代田遺跡……………	五
6 黒河内遺跡……………	六
7 役場裏遺跡……………	七
8 其の他の遺跡……………	八
9 鞍骨古墳……………	一四
10 西の塚古墳……………	一〇
11 行人塚古墳……………	一一
12 地藏堂古墳……………	一二
13 物見塚古墳……………	一三
14 伝承古墳……………	一四
イ 小山塚……………	一四
ロ 神明塚……………	一四
ハ 名号塚……………	一四
1 山岸遺跡……………	一
2 天伯B遺跡……………	二
3 梅林・六反畑遺跡……………	三
4 日向田遺跡……………	四

第二編 古代

第一章 古代の概要……………	一七
----------------	----

第二章 古代の鼎町……………	一四
----------------	----

第一節 古代の鼎町の概要……………	一四
-------------------	----

第二節 東山道の通過地点……………	一四
-------------------	----

第三節 大化の改新と班田収授……………	一五
---------------------	----

第三章 平安時代……………	一五
---------------	----

第一節	一連の流れ	一五
第二節	平安初期・政治の刷新	一五
第三節	荘園の発達	一六
第四節	武士の興起	一六
第五節	日本武尊・坂上田村麻呂・伝教大師の伊那路通過	一七
一	日本武尊の伊那路通過	一七
二	坂上田村麻呂の伊那郡通過	一七
三	伝教大師の東国巡錫と神坂	一七
第三編	中 世	
第一章	中世の概要	一七
第二章	鎌倉時代	一七
第一節	伊賀良庄の伝領と領域	一七
第二節	伊賀良庄の地頭と地頭代官四条金吾	一七
第三章	室町時代	一八
第一節	小笠原氏と伊賀良庄	一八
第二節	室町時代の鼎	一九
第四章	武田および織豊期の鼎	一九
第一節	武田氏の伊那攻略	一九

第四編 近世

第一章 近世の概要	101
第二章 領主の変遷	103
第一節 小笠原氏	103
第二節 脇坂氏	104
第三節 堀氏	105
第四節 中西氏	111
第三章 土地制度と貢租	114
第一節 検地	114
一 山村の検地	114
二 長熊村の検地	114
第二節 年貢	115
第三節 小物成	115
一 小物成	115
二 運上金・国役金	115
第四節 課役	116
第四章 村の構成と支配	119
第一節 村方三役と五人組	119
一 村方三役	119
二 五人組	119

第二節 戸数と人口……………二七

一 宗門帳 二 人口異動……………

第三節 御触書・村定め……………三〇

一 御触書 二 村定め……………

第四節 村 貫……………三三

一 村 貫 二 六ヶ村貫と下郷貫……………

第五節 村方騒動……………三四

一 山村における騒動の経過 二 山村における騒動の結果 三 名古熊村の庄屋に対する疑義……………

第五章 水利と用水……………三五

第一節 伊賀良井……………三五

一 開発の歴史 二 井の慣行 三 井普請・井水番・井貫……………

第二節 羽場 井……………三六

第三節 その他の井水……………四〇

一 天王井 二 男女川井 三 名古熊井 四 新井 五 車井 六 思い川井……………

第四節 水車と井水開発計……………四七

一 水車 二 井水開発計画……………

第六章 山林と入会山……………四二

第一節 松川入共有山の沿革……………四二

一 沿革 二 経営……………

第二節 松川入の入会山論	四三六
一 松川入会論争	四三六
二 円悟沢山の争論	四三六
三 押ノ沢山の争論	四三六
四 關沢山の争論	四三六
五 丸山兵	四三六
部の新田計画と草山調べ	四三六
第三節 付近の村々との境論	四三〇
一 上飯田村権現山と松川山境との争論	四三〇
二 上飯田村と山村の境論	四三〇
三 名古熊村と下殿岡村の境論	四三〇
第四節 落し木	四三九
一 落木伐りと運材	四三九
二 落木伐りのきまりや運営	四三九
第五節 村林と個人持林	四七二
一 村林	四七二
二 個人持林	四七二
第七章 産業	四七六
第一節 農業	四七六
一 耕地	四七六
二 田・畑の作物	四七六
三 肥料	四七六
第二節 商品作物と副業	四八〇
第三節 手工業	四八三
一 製糸	四八三
二 製紙・元結・水引	四八三
三 その他	四八三
第四節 商業	四九一
第五節 金融(講)	五〇五
第八章 交通	五〇九
第一節 郷	五〇九

第二節 中 馬	五元
第三節 庶民の旅	五四一

第九章 災害凶作と飢饉	五五三
-------------	-----

第一節 松川の氾濫	五五三
-----------	-----

第二節 天明天保の飢饉	五六一
-------------	-----

第三節 郷倉（貯穀）	五六八
------------	-----

第十章 藩財政と農民	五七三
------------	-----

第一節 御 用 金	五七二
-----------	-----

第二節 二分増米	五七七
----------	-----

第三節 千人講騒動	五八〇
-----------	-----

第十一章 維新と農村	五八六
------------	-----

第一節 冥加金と夫役	五八六
------------	-----

第二節 水戸浪士の通行	五九〇
-------------	-----

第三節 世直し一揆	五九五
-----------	-----

第四節 二分金騒動	五九七
-----------	-----

第十二章 神社・寺院	六〇三
------------	-----

第一節 神 社	六〇三
---------	-----

一 矢高神社	二 名古熊神社	三 一色神社	四 天伯神社	五 萱垣稲荷社
--------	---------	--------	--------	---------

第二節 寺院……………六一

一 大柴山法藏寺 二 萱垣山願王寺 三 長熊山運松寺 四 宝曆庵

第十二章 教育と文化……………六三〇

第一節 国学……………六三〇

第二節 寺小屋……………六三一

第三節 和算・剣術……………六三八

第四節 文化財……………六三二

一 有形文化財 二 史跡 三 天然記念物